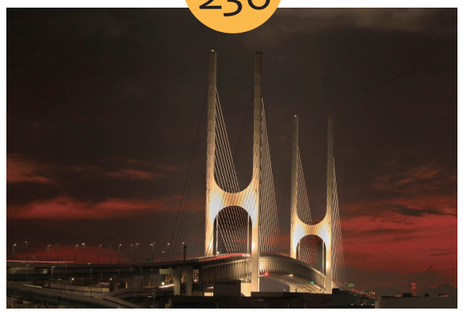
関西とともに―［阪神ハイウェイ］
HANSHIN HIGHWAY
2025 WINTER vol. 236



～阪神高速のある風景～
第4回 阪神高速フォトコンテスト最優秀賞作品

CONTENTS

エッセイ●季節の言葉
雑煮食うてねむうなりけり　中井精一

1 この出入口のこと知ってる？●阪神高速の出入口再発見！
わかみや［若宮］
3号神戸線「若宮出入口」
大迫力のシャチのパフォーマンス！
神戸の新しいにぎわいの拠点、神戸須磨シーワールド

4 関西の名工
太田浩一さん（組紐職人）
「内記台」という希少な組台を使って、
絶妙の締め具合の帯締めを組む

6 教えてセンセイ
内藤裕二さん（京都府立医科大学大学院教授）
腸の環境は全身の健康に影響します
決め手は腸内細菌。食物繊維で増やしましょう

8 阪神高速の取り組み
阪神・淡路大震災から30年
被災経験を決して風化させない
つないでいく1.17

10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん
淡路島えびす鯛 ●南あわじ市

12 Hanshin Highway TIMES
〈喜連瓜破⇄三宅JCT〉通行再開しました
「住吉浜出口」付近　渋滞最後尾への追突事故にご注意ください
阪神高速おでかけパス
ETC車載器購入助成キャンペーン2024

表紙イラスト〈神戸須磨シーワールド シャチのジャンプ〉
ヤマサキタツヤ：大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。
「来た見た食うた 大台南見聞録」（書肆侃侃房）など主に台湾に関する書籍を出版。

エッセイ 冬 季節の言葉

雑煮食うてねむうなりけり

雑煮食うてねむうなりけり勿体な　村上鬼城（むらかみきじょう）

正月ののんびりした、しあわせな様子が伝わってきて、なんだかこちらまでほっこりした気持ちになりますね。

鬼城はどのような雑煮を食べて眠くなったのでしょうかね。鳥取藩士の子として江戸小石川に生まれ、その後亡くなるまで鬼城は、群馬県高崎市で過ごしたので、日本海側でよく食べられるぜんざいのような小豆雑煮、小松菜の入ったすまし仕立ての江戸雑煮、あるいは昆布や豆腐を入れた上州雑煮のいずれかだったように思います。

関西の雑煮に目を向けると、大阪の中心部では、元旦は白味噌雑煮（小さくて細い雑煮大根の小口切り、里芋、焼き豆腐、丸餅）で祝う。二日の朝は、澄まし雑煮（丸餅の焼き餅、水菜、かまぼこ入り）。三日朝は元日と全く同じといったお家も多いようです。

北河内（淀川流域）の方面では、里芋、人参、大根、揚げ、くわい、豆腐、丸餅を味噌で味をつけた雑煮。泉州、岸和田などでは小餅、里芋、大根、焼き豆腐を入れた白味噌仕立ての雑煮といった具合で、大阪府内でも微妙な違いがあります。また南河内の山間部では、すかん（またはおかん）といって、大根、人参、里芋を丸切りにして、普段のおかずのように炊いたものを食べて、雑煮を食べない家もありました。このほか北摂の山間部では、金運を願って小金を入れる地域もありました。このように雑煮は、具材や調味料が地域ごとで違うだけではなく、食べ方のルールが違っていたり、なかには食べないという地域もあって、その多様性には驚かされます。

この背景にはどうも雑煮の歴史が関係していて、雑煮は、江戸時代になって武家に広まり、庶民への普及は、江戸後期から明治期以降と言われ、比較的新しい料理だからだと考えられます。規格化・定型化が進んでおらず、各地各様で、今なお豊かな地域性を感じさせる郷土料理の代表選手でもあるわけです。

今年のお正月は、どんなお雑煮でしたか。

中井精一　なかいせいいち（同志社女子大学日本語日本文学科教授）
博士（文学）（大阪大学）専門は日本語学・方言学　主な著書に『地図で読み解く関西のことば』（昭和堂）『関西弁事典』（ひつじ書房）、『大阪のことば地図』（和泉書院）などがある。

この出入口のこと知ってる？

阪神高速の出入口再発見！

わかみや「若宮」

3号神戸線「若宮出入口」

須磨の空と海を背景に、水しぶきをあげて大迫力のジャンプをする体長5.2mのシャチ。胸ビレを手のように振ったり、尾ビレでバシャンと豪快に水しぶきを客席にあびせたりとさまざまなパフォーマンスを繰り広げる「シャチとトレーナーの信頼関係が強く結ばれているからこそできること」と中野館長。なお、オルカはシャチの別名。

大迫力のシャチのパフォーマンス！神戸の新しいにぎわいの拠点、神戸須磨シーワールド

3号神戸線・若宮出入口からすぐ、神戸市立須磨海浜水族園の跡地に、2024年6月、神戸須磨シーワールドがグランドオープンしました。2024年10月には、開業から4カ月で来館者が100万人を突破。新しい神戸須磨シーワールドの見どころや取り組みについて、館長の中野良昭さんに聞きました。

毎回、構成が変わるシャチのパフォーマンス

神戸須磨シーワールドは、西日本で唯一シャチが見られる「オルカスタディアム」、イルカのいる「ドルフィンスタディアム」、魚類やアシカ、アザラシ、ペンギンなどがいる「アクアライブ」の3棟で構成されています。神戸市立須磨海浜水族園（以下、スマスイ）から引き継いだ魚や動物をベースに、新たな動物たちも加わり約560種1万9千点を展示しています。

いちばんの目玉はやはり、オルカスタディアムでのシャチのパフォーマンスです。海の王者といわれるその大きさによるダイナミックなパフォーマンスは、他の動物では見ることのできない迫力があります。当館でのシャチのパフォーマンスは、毎回、構成を変えているんですよ。高い知能を持つシャチが飽きずに楽しんで演技ができるよう、ジャンプから始まったり水中での演技から始まったり。お客さまも「前回とは違う新しいパフォーマンスだ！」と見るたび新鮮に感じていただける

かもしれません。

シャチの飼育では、食事の時間や量に日々あえて変化をつけています。シャチに「あれ？なぜいつもの時間にゴハンがこないだろう？」「ちょっと量が少ないな」など、いろいろなことを考えさせるんです。もちろん定めたエサの総量は変えないのですが、ぼーっとする時間をなくして刺激を与えることが、彼らにとって生き生きした暮らしにつながります。

シャチは世界中の海に分布していながら、いまだ謎の多い生きものです。明らかになっているのは、母親を中心とした母系家族単位で生活していること。一定の地域で暮らす「定住型」もいれば、決まった行動区域を持たず北へ南へと移動する「回遊型」もいることが知られています。食性もさまざまで、サケなどの魚だけを食べるアラスカ沿岸などにいるグループもあれば、ペンギンやアザラシを食べる南極海などにいるグループもいます。オルカスタディアム1階の「オルカラボ」「オルカホール」では、シャチについて解明された研究成果をデジタル画像や映像でご紹介しています。シャチの生態を少し知ったうえでパフォーマンスをご覧いただくと、見え方が違ってくるかもしれません。

絶滅に瀕した地域の魚の保全も

ドルフィンスタディアムでは、イルカのパフォーマンスを2・3階の観覧席で楽しんでいただくのはもちろん、1階のドルフィンホールで水中のイルカの様子を観察してもらうのもおすすめです。幅12m、高さ2.7mの大きなアクリル水槽を設けており、イルカがジャンプして水中に戻ったときのドーンと水を叩く音や振動を体感することができます。イルカの水中でのすばやい動きも興味深いですよ。

アクアライブでは、「水の一生」をテーマに雨水が山から川へ海へと流れ込む自然を再現し、それぞれの環境に棲む生きものを展示しています。瀬戸内海で暮らすおなじみの生きものもいますよ。そのひとつがイカナゴです。イカナゴは、水温が上がる夏の間、砂の中にもぐって「夏眠」する性質があります。瀬戸内海はマダコも有名ですね。マダコは縄張り意識が強いため、1つの水槽に1～2匹を展示するのが通常です。しかしここでは、水槽内にマダコの隠れられる場所を多くつくるなどの工夫で、10～20匹をいっしょに展示することが成立しています。また、鳴門の渦潮を再現した水槽もあります。激しい潮流の中を泳ぐマダイなどの動きもぜひ観察してください。

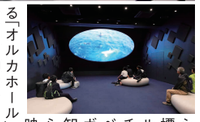
いま水族館は、魚や動物をエンターテインメントとして展示するだけでなく、繁殖・保全、調査・研究の役割も担っています。たとえば1980～90年代、全国の水族館に約120頭いたラッコは現在3頭のみで、なかなか身近にご覧いただけないという問題に直面しています。こうした事態にならないよう、全国の水族館や動物園は手を取り合って繁殖に力を入れています。当館では2024年2月、ゴマフアザラシの繁殖に成功しています。

一方、自然界でも宅地造成や護岸整備などによって、数が減っている小さな魚がいます。たとえば、カワバタモロコ。名前を聞いてもピンとこないかもしれませんね。かつては神戸市内の小川やため池などに多く生息していました。当館では、こうした希少となった魚の飼育や繁殖も行っています。名前も知られない地域に棲む小さな魚を現地調査してレスキューするのも、水族館の大切な役割のひとつと考えています。

神戸須磨シーワールドが建つこの場所は、スマスイ、そしてその前身の1957年開業の神戸市立須磨水族館があった、水族館として歴史ある場所です。アクアライブ1階の「スマコレクション」にはスマスイ時代からの人気者の魚たちを展示し、入館料無料で開放しています。「ガージい」と親しまれる、47歳というご長寿のロングノーズガー（須磨水族館時代に世界初の水槽内繁殖で誕生）も元気ですよ。すぐ西側の須磨海浜公園内にはカフェなどができ、海岸沿いもきれいに整備されました。海岸を散歩するついでに、公園でお子さんと遊ぶついでに、スマコレクションに立ち寄って魚たちを見ていただけたらと思います。

現在、神戸須磨シーワールドへの来館者は近畿一円からが多いのですが、四国や中部、関東方面からもお越しいただけるよう魅力をさらにパワーアップさせていきます。それによって、須磨エリアを盛り上げ、神戸市西エリアのさらなる活性化につながっていけばうれしいですね。

華麗なイルカのパフォーマンス。イルカとシャチのプールにはそれぞれメディカルプールが設置され、負担が少なく治療などができる工夫も。
（写真下：神戸須磨シーワールド提供）



シャチの骨格標本やデジタル画像でシャチについて学べる「オルカラボ」（写真上）と知床の海に暮らすシャチを映像で紹介する「オルカホール」（写真下）。今後、神戸須磨シーワールドは知床でのシャチの生態の調査・研究に携わっていく予定。

さまざまな魚類が展示されるアクアライブ。屋上（4階）には、ペンギン、アシカやアザラシ、ウミガメがいる。マゼランペンギンは、南アメリカのチリ沿岸に生息している。日本の環境にも慣れやすいが、暑い夏でもペンギンが泳ぐ水の水温は25℃以下に保たれている。

「お客さまの楽しそうな笑顔を見ているとご満足いただけているんだなと感じます。シャチから小さな魚まで、生きものの姿をよりよくご覧いただけるよう努めていきます」と中野館長。

神戸須磨シーワールド
神戸市須磨区若宮町1-3-5

★須磨寺

886（仁和2）年に創建された、真言宗須磨寺派の大本山。本堂、三重塔のほか、境内には平敦盛と熊谷直実の一騎討ちの場面を再現した源平の庭、敦盛の首塚、敦盛首洗いの池、義経腰掛けの松など源平ゆかりの史蹟が多く見られ、敦盛遺愛の青葉の笛などの宝物も残る。古来より源平のロマンを偲んで訪れる文人墨客も多く、広い境内のあちこちに句碑・歌碑が点在している。毎月18日には写経会、不定期に須磨寺落語会なども開催される。また毎月20日21日は、弘法大師の縁日で「須磨のお大師さん」として親しまれている。

★須磨離宮公園

大正天皇のご宿泊を主目的に造営された「武庫離宮」を戦後、宮内庁が神戸市に下賜。その後、当時皇太子だった上皇陛下のご成婚記念事業として整備され、1967年、須磨離宮公園として開園した。約300種4000株のバラをはじめ、ボタンやハナショウブ、紅葉、梅など四季折々の花が咲き誇る。欧風庭園を模した「噴水広場」を中心に、旧岡崎邸である「和室」と「和庭園」や、ジャンボすべり台のある「児童遊園」もあり、子どもの遊び場としてもぴったり。

★綱敷天満宮（須磨の天神さま）

菅原道真公が九州大宰府に渡るおり、漁師たちが大綱でつくった円座で休憩されたと伝わる。それにちなんで道真公が亡くなった後、道真公をお祀りする綱敷天満宮が創建された。合格祈願、学業成就を願う人々が訪れ、また海に近いことから「波乗り神社」としても知られる。梅の季節（1月末～3月上旬）には、境内に120本以上の梅が咲き、夜間ライトアップ（2月24日・25日を含む梅花祭前後）も行われる。150種類以上の「ご朱印」と「お守り」が有名で一つ一つ手描きの土鈴、だるま、うそどりなどが人気。最近のお守りでは神戸須磨シーワールドの「シャチ（幸）守り」を求め遠方からもたくさん訪れる。

★須磨浦山上遊園

鉢伏山から旗振山にかけて広がる山上公園。須磨浦公園から「ロープウェイ」と乗り心地の悪さで人気の「カーレーター」、「リフト」を乗り継いで行く。カーレーターを降りると、回転展望閣・屋上展望台があり、瀬戸内海を一望できるパノラマビューが広がる。「神戸らしい眺望景観50選、10選」「ひょうごの景観ビューポイント150選」にも選定された。リフトを降りた先には、「サイクルモノレール」やチビッコ広場などがある。（リフト、サイクルモノレールなどの営業は土日祝のみ）

★須磨海づり公園

四季を通じてさまざまな魚が釣れる、須磨海づり公園。2018年の台風の被害で休園していたが、2024年11月、6年ぶりにリニューアルオープン。釣り台の手すりを高くするなど安全性もアップ。レンタル竿もあって手ぶらで釣りをすることもできる。また、須磨海づり公園内の海辺には、新しく「SUMAてらす」が誕生。海鮮食堂やコーヒーなどを提供するキッチンコンテナも常設。イスやテーブルが海辺に用意され、釣りをしない人も波打ち際でのんびりくつろげる空間になっている。（SUMAてらすのみの入園は無料）

★須磨海浜公園・松の杜ヴィレッジ

東は海浜公園球技場から西は旧和田岬灯台まで、神戸須磨シーワールドを含む、白砂青松の須磨海浜公園。2023年、神戸須磨シーワールドの開業にさきがけて公園西側をリニューアル。芝生広場などのほか、カフェやレストランなどがある、にぎわい施設「松の杜ヴィレッジ」がオープン。「パークコンシェルジュ棟」には、会議スペースや授乳室も設置されている。また、神戸須磨シーワールドの開業と同時に、「BE KOBE」のモニュメントが立つ「BE KOBEひろば」も整備された。

★ナナ・ファーム須磨

地産地消と地域活性化をテーマにした、「食の大切さ」を訴求する大都市近郊型産地直送市場。兵庫県近郊の300軒もの農家から届く新鮮な野菜、瀬戸内海でとれた季節の魚、地元・兵庫の畜産物が勢ぞろい。2階には、瀬戸内海を一望しながら新鮮食材をその場で楽しめる海鮮レストランや、焼肉レストランも。また、1階のコミュニティコートは、ドライブ途中の休憩スポットにも最適。

★一ノ谷 戦の濱碑

須磨の一ノ谷は、平家が源氏に破れた古戦場。源氏は平家を攻めるが勝負はなかなかつかず、1184（寿永3）年2月7日、源義経らは一ノ谷の裏手の断崖絶壁から馬で駆け下る「ひよどり越え」の奇襲をかける。これによって戦局が一転、源氏の勝利につながった。毎年、旧暦2月7日早朝には馬のいななきが聞こえると伝わる。須磨浦公園の東には、「戦の濱」の石碑がある。